

第55回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

安心をありがとう

茨城県 那珂市立第三中学校 一学年

高畑 乃彩

今年の母の手帳には、十年先までのライフプランが書かれています。現在中学一年生の私が大学を卒業するまでの十年間の、家族の年齢と私と妹の入学や卒業の年が記されており、その下には色々な項目があります。

「去年までのライフプランもあるよ。」

と、母が棚の奥の方から小さなノートを出して見せてくれました。私の年齢は三歳から始まっています。項目は今年のものともあまり変わりはないようですが、色々と書き込みがされています。

一番大きな項目には、「保険」と書かれていて家族一人ひとりの名前と加入している保険の種類や名称が書かれています。私の列には十八歳まで矢印が引いてあり、「医療保険」と書いてあります。母にたずねると、矢印は私がケガで通院したときや入院をしてしまったときに、治療費の負担を軽減するためにお金が支払われる保険で、それは私が高校を卒業するまでずっと続くそうです。

「前に小さな折り鶴渡したでしょ？あれはケガをして病院に通ったときに保険会社の方が送ってくれたのよ。」

と母に言われて思い出しました。その折り鶴は今でも机の中に大事にしまっており、とても温かい気持ちになりました。

通学や部活などでケガが多い私は、何度か保険のお世話になっていて母は教えてくれました。逆に、毎日自転車で通学する私がいずれも歩行者にぶつかりケガを負わせてしまったときや、他人の大事なものを誤って傷つけてしまったときに支払わなくてはいけない賠償金のために損害保険にも加入しているそうです。もしものための保険ですが、もしものことにならないように自転車に乗るときは、気をつけたいと思います。

さらに私の列には、小学六年と中学三年、さらに高校三年のときには大きな金額が記されています。それは、学費準備のための保険というもので、私が中学、高校、大学に入学するときの準備金として支払われるのだそうです。今年、中学入学の準備のときや部活で新しくそろえた剣道の道具一式を用意する際にとっても助かった

第55回中学生作文コンクール

そうです。同じように高校入学時や大学入学時にも支払いがありません。この学資準備のための保険は、私が生まれてすぐに祖母からすすめられて加入したそうで、十八歳の満期までに家族の大黒柱である父に万一のことがあったときは、それ以降の保険料は納めなくても満期をむかえることができるシステムになっています。私が安心して教育を受けられるようにという思いで父と母は申込みをしたそうです。毎年私の誕生日の八月に一年分の保険料の払込みをしているので、ちょうど今月払込みがあるので、あと残り五回だねと母は言いました。

母の手帳から私の保険の話を聞いて、保険の仕組みについてもわかったことがあります。保険とはよく四字熟語で「相互扶助」と表現されており、いつどこで、誰が会おうかわからない「万一」のために、「万人はひとりのために、ひとりは万人のために」という考えに立ってお互いにお金を出し合って助け合う。それが保険という制度だということがわかりました。

一人で考えると、大きなケガや損害の可能性は決して高くないかもしれません。もしかしたら、一生涯のうち事故や災害に無縁な人はたくさんいるかもしれません。しかし日本全体で考えると、自動車事故は約五十九秒に一回、病気やケガで新たに入院する人は約二秒に一人いるそうです。保険に加入した人々はお互いに少しずつお金を出し合い、その中の誰かに万一のことがあれば集まったお金の一部で損害を補うことができます。一人ひとりの小さな負担で、安心を手に入れる助け合いのシステムにより私は多くの人に支えられていることを、うれしく思いました。